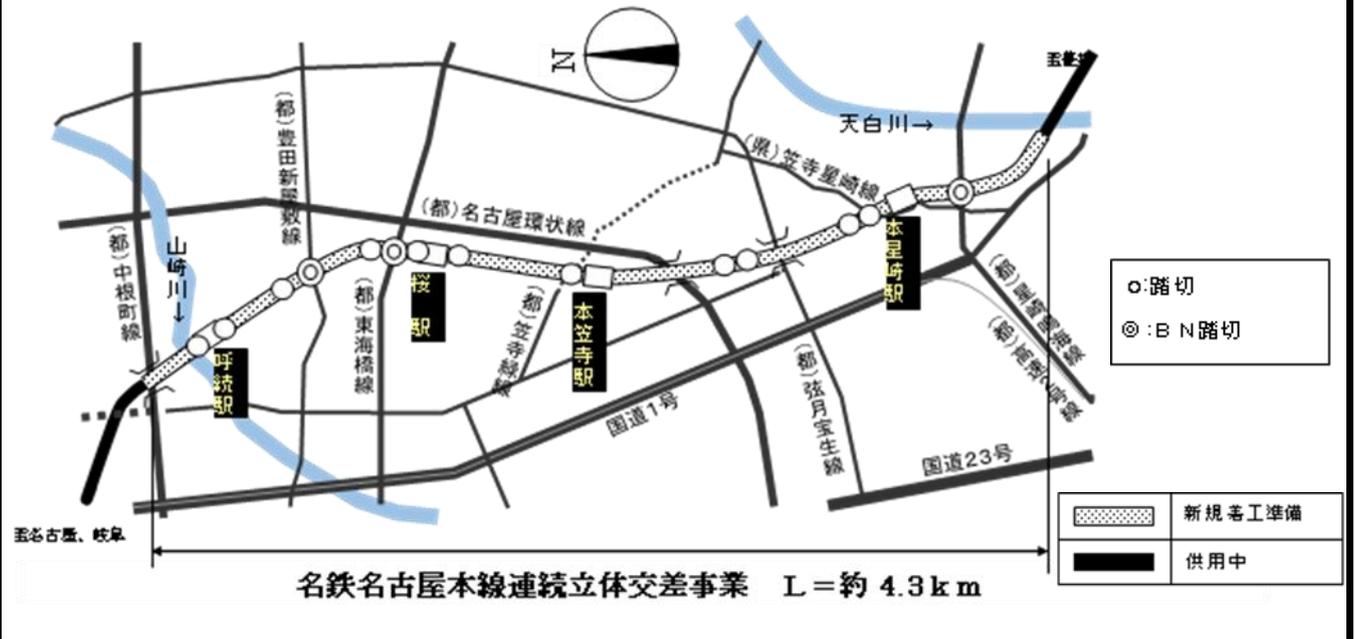


再評価結果（平成31年度事業継続箇所）

担当課：都市局街路交通施設課
担当課長名：本田 武志

事業名	名古屋鉄道名古屋本線（呼続駅～本星崎駅間）	事業区分	連続立体交差	事業主体	名古屋市
起終点	自：名古屋市瑞穂区妙音通 至：名古屋市南区阿原町			延長	4.3km
事業概要					
<p>本事業は、名鉄名古屋本線呼続駅から本星崎駅付近を連続立体交差化し、踏切14箇所（うちボトルネック踏切3箇所）を除却することにより、踏切渋滞、事故を解消するなど都市交通の円滑化と鉄道による地域分断の解消を図るものである。</p>					
事業化	-	都市計画決定	-	用地着手	-
工事着手	-			供用済延長	0km
全体事業費	605億円	事業進捗率	0%		
踏切交通遮断量	485,224台・時/日				
費用対効果 分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年	
	(事業全体) 1.1	(残事業)/事業全体 336/336億円 事業費：299/299億円 維持管理費：37/37億円	(残事業)/事業全体 378億円/378億円 走行時間短縮便益 337/337億円 走行経費減少便益：9/9億円 交通事故減少便益：32/32億円	平成30年	
感度分析の結果					
<p>(事業全体) 交通量：B/C=1.2~1.0（交通量±10%） 事業費：B/C=1.0~1.3（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.0~1.3（事業期間±20%）</p> <p>(残事業) 交通量：B/C=1.2~1.0（交通量±10%） 事業費：B/C=1.0~1.3（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.0~1.3（事業期間±20%）</p>					
事業の効果等					
<p>連続立体交差事業、交差道路や側道等の都市基盤を整備し、都市交通の円滑化を図るとともに、周辺のまちづくりを進め、地域の活性化・一体化を図るものである。</p>					
関係する地方公共団体等の意見					
政令市の連名で、連続立体交差事業に係る要望活動を行っている。					
事業評価監視委員会の意見					
-					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
-					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
現在、関係機関と協議を進めている。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
今後は環境影響評価、都市計画の手続きを進めていく。					
施設の構造や工法の変更等					
設計の段階から可能な限り工事費の縮減に努めるとともに、維持管理費の縮減に努める。					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由					
<p>本事業は、名鉄名古屋本線の14箇所の踏切を取り除くことにより、地域分断を解消するための新たな交差道路をつくり、渋滞や踏切事故の解消などが図られる事業効果の非常に高い事業である。現在、都市計画手続きに向けて作業を進めており、今後の円滑な事業進捗を図り、早期完了を目指す必要がある。</p>					

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。